

単元名 **ありがとう いっぱい**

配当時間 **11 時間**

- 単元の目標 (1) 家庭における自分の役割、自分の成長は家族の支えによることなどに気付くことができる。
 (2) 自分が家族のためにできることを考え、行動するとともに、できたことを工夫して友達に伝えることができる。
 (3) 家庭での生活を振り返ったり、家の仕事に挑戦したりして、家庭での生活に関心を持ち、自分の役割を積極的に果たそうとする。

標準的な展開例

01060205_001

【準備等】記録カード（家の仕事調べカード、チャレンジカード、発見カード）、便箋 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族について話し合い、単元の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族の写真です。 お風呂掃除をしたり、洗濯物を畳んだりしています。 はしを並べている子がいます。 単元名を見て、家族に「ありがとう」と伝える場面を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族に「ありがとう」と言うのだと思います。 家族はいつも仕事や家のことをしてくれるから「ありがとう」だと思います。 わたしのことを育ててくれて「ありがとう」だと思います。 ★にこにこ大作戦を考えよう 家族がにこにこするような活動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 「いつもありがとう」と言って一緒に家の仕事をしたいです。 お母さんはいつも夕方になると忙しそうなので、自分でもできることを見付けたいです。 家の仕事にはどんなものがあるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族のごはんを作る仕事です。 洗濯物を干したり畳んだりする仕事です。 <p>2～3 調べてきたことを基に、家族のために自分ができる仕事を考え、「にこにこ大作戦」の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを基に、家族が家庭でしていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> お風呂掃除はお父さんの仕事です。 ぼくが学校に行っている間に、お母さんはお買い物に行ったり掃除したりしています。 おばあちゃんが洗濯物を畳んでいます。おばあちゃんは畳み方名人です。 お母さんが料理をしています。わたしはその間に机を拭いたり食器を並べたりしています。 ★にこにこ大作戦の計画を立てよう 自分にできそうな仕事を考える。 <ul style="list-style-type: none"> お父さんと一緒に、お風呂掃除がしてみたいです。 夕方はやる事が多くていつもお母さんが忙しそうなので、洗濯物畳みをしようと思います。 玄関掃除をおばあちゃんがやっているの、ぼくは靴揃えがしたいです。靴が揃っていると気持ちがいいからです。 計画を立て、「チャレンジカード」にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> やってみたい仕事 行う日や時間帯 お手伝いを教えてもらう相手 まとめたことを発表する。 <p>4～5 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。 (1 回目の実践)</p> <p>★家の仕事を紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り組んだことや、取り組んでよかったこと、分かった 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 94～95を見て、写真に写っているのが家族であることを押さえ、色々な家の仕事をしていることに気付かせる。 誰に向けての「ありがとう」であるか問いかけ、どのような場面で伝えるのか考えさせる。また「ありがとう」を伝える機会がたくさんあることに気付かせ、「いっぱい」という単元名に結び付ける。 自分の家族がにこにこするにはどうしたらよいか問いかけ、学習のめあてを提示する。 「ありがとう」と伝える場面を発表したことに加え、教科書P. 95の写真に注目させることで、家族のためにできることを考える単元であることを予想させる。 家族がしていることは、児童が気付いていないものや児童が学校に行っている間のものもあるため、家で調べ、「家の仕事調べカード」に書き込むよう指示を出す。その際、誰がどの仕事を行っているかが分かるような記録カードにする。 <p>【評】学習の見通しをもつことを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体場で発表させる。 家によってやる仕事や役割が違うといったように、さまざまな家庭生活のスタイルがあることを考慮し、児童が互いの生活を認め合えるようにする。 板書をするときは、「料理」「掃除」「世話」「その他」などの項目に分け、振り返りがしやすいようにしておく。 家族が自分たちのためにしてくれていることがたくさんあることに気付かせることで、家族の温かさや家族一人一人のよさに気付かせたい。そして、自分も家族の一員として何かやりたいという児童の意欲を高める。 家の仕事をしている児童を例に挙げ、本時は自分や家族の役割を考える学習にすることを伝え、めあてを提示する。 事前に家庭に協力を呼びかけ、一人一人が自分の思いを生かして計画を実施できるようにする。 家の仕事を選んだ理由も尋ね、家族のために喜んでもらうために活動することを確認し、児童の意欲を高める。 本時の記録カードは家に持ち帰らせ、次の生活科の授業までにお手伝いをしてもらうよう伝える。 <p>【評】自分にできることを考え、計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録カードは、「よかったこと」「分かった

こと、家族に言われたことなどを「チャレンジカード」に書く。

- ・おばあちゃんと洗濯物を畳みました。きれいに畳むコツを教えてくださいました。おばあちゃんはすごいです。
- ・お風呂掃除は、上の壁から洗っていくそうです。洗い方が分かって嬉しかったです。
- ・家の人に褒めてもらえて嬉しかったです。
- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・洗濯物畳みをやりました。きれいに畳めるコツを教えてくださいました。
 - ・お父さんと一緒にお風呂掃除をしました。すごく時間がかかったけど、とてもきれいになりました。気持ちよくお風呂に入れました。
- 友達の話を聞いた感想を発表する。
 - ・わたしも洗濯物畳みをしてみたいです。

6 仕事のやり方を教え合い、もう一度挑戦したい仕事を決める。

- ★仕事のコツを教え合おう
- 仕事のやり方やコツを教え合う。
 - ・洋服の袖はこうたたむとうまくいきます。
 - ・テーブル拭きのご飯の後の方が大変です。汚れを残さないように拭きます。

- もう一度挑戦したい仕事を決める。
 - ・わたしは、洗濯物を畳み続けたいです。今度は一人で挑戦したいです。
 - ・わたしは、友達に教えてもらったテーブル拭きをしたいです。

7 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。
(2回目の実践)

- ★前回よりレベルアップしたことを紹介しよう
- 取り組んだことや取り組んでよかったことなどを「チャレンジカード」に書く。
 - ・エプロンはなかなか上手に畳めませんでした。袖の部分は、しわにならないように丁寧に畳みます。もっと上手になりたいです。
 - ・ぼくが洗濯物たたみをするようになったら家の人の笑顔も増えました。これからも続けたいです。
- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・自分の体操服や給食エプロンを畳むようにしました。タオルや靴下と違って難しかったです。
 - ・お風呂掃除は、前は大変だと思っていたけど、だんだん楽しくなってきました。
 - ・家の人は大変だということが分かりました。

8 これまでの取組を振り返り、さらに続けていきたいことや挑戦したいことを考え、記録カードに絵や文でかく。

- ★これまでの家の仕事の取組みを振り返り、これから挑戦したいことを考えよう
- 家庭での取組で、やってみてよかったことや気付いたことを伝え合い、発見カードにかく。
 - ・最初はタオルしか畳めなかったけど、今ではシャツも畳めるようになりました。
 - ・家族にありがとうと言われて嬉しかったです。
- 家の人が喜んでくれたか話し合う。
 - ・褒められたから、喜んでくれたと思う。
 - ・失敗してしまったけれど、頑張ってくれて嬉しいと言ってくれたよ。
- さらに続けていきたいことや、これから挑戦したいことを考える。
 - 「自分のこと」
 - ・朝はお姉さんに起こしてもらっているけど自分で起きられるようになりたいです。
 - 「家族のこと」
 - ・〇〇さんみたいに、靴洗いをしようと思いました。
 - 「学校でもできること」
 - ・体操服や給食エプロンも家で教わった畳み方にしようと思います。

こと」「家族に言ってもらった言葉」の視点で書くように指導する。以後も同様に指導する。教科書P.97を参考にしてもよい。

- ・記録カードに表情マークを描く欄を設け、そのときの気持ちが振り返られるようにする。
- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・靴揃えや洗濯物畳みなどは実践を交えて紹介させ、伝え方を工夫するよう促す。以後も同様に指導する。
- ・宿題以外の場で、自主的に何度も取り組んでいた児童がいたら称賛する。

- ・友達の話を聞いて、詳しく教えてほしいことと真似したくなったことなどを取り上げ、次時に生かす。

- ・いくつかの場を用意し、仕事をした児童から教わりながら体験できるようにする。
- ・仕事のやり方やコツを教え合うことで、上手くいかなかったことを改善しようとしたり、やっていなかった仕事に挑戦しようとしたりする意欲を高めさせる。

- 【評】仕事のやり方やコツを教え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・児童が家の人の役に立ちたいという気持ちを尊重し、同じ仕事にもう一度挑戦し、もっと上手にできるよう目指すことも、新しい仕事に挑戦してみることもどちらも認める。

- ・前時の3つの視点に加え、前回と比べたり新しく挑戦したりしたことも書かせる。

- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・前回の記録カードを参考にしたり家族にかけてもらった言葉を想起させたりしながら、前回と比べてできるようになったことや新たに気付いたことなどを発表させる。
- ・自分の成長に気付いたり、友達の発表を聞いて自分とは違う取組のよさを認めたりできるような言葉を掛ける。

- ・朝の会や帰りの会の時間を活用して、継続して取り組んでいる様子を発表させるなど、意欲が継続するよう指導するとよい。
- ・成長したことや、家族に言われて嬉しかった言葉を想起させて発表させる。
- ・家族がみんなのために家事をして支えてくれていることに気付かせる。
- ・これまでに書いた記録カードを振り返ったり家の仕事をした後の家族の顔を思い出させ、家の人が喜んでくれたか考えさせる。

- ・一人一人の取組や気付きを称賛し、今後も自分でできることは続けたい、できることを増やしたいという児童の意欲を引き出せるようにする。
- ・生活習慣や生活リズムを見直すきっかけとしよりよい生活を築こうとする気持ちを高める

- ・「家の仕事」については、これまでの取組を続けてもよい。また、友達の取組を参考にしてもよい。

9 継続して取り組んでいることやできるようになったことを振り返る。

★にこにこ大作戦を振り返ろう

- 取り組んでいることを振り返り、発表する。
 - ・家の仕事がたくさんできるようになりました。
 - ・洗濯物畳みは、宿題の後にやることになっています。わたしの仕事として続けています。

- 記録カードを振り返り、紹介したい取組の一つ選んで発表の練習をする。

10 できるようになったことを発表する。

★にこにこ大作戦の報告会をしよう

- 発表する。
- 感想を伝え合う。
 - ・〇〇さんが、洗濯物の畳み方を教えてくれたのがよかったです。ばくも〇〇さんみたいにきれいに畳みたいです。

11 自分や家族の役割を考え、お世話になっている家族に感謝の手紙を書く。

○自分や家族の役割について考える。

＜自分＞

- ・今の食器並べとお風呂掃除を続けたいです。
- ・新しいことにも挑戦したいです。

＜家族＞

- ・ぼくたちのために家の仕事をしてくれています。
- ・わたしたちが元気でいられるように、ごはんを作ったり熱が出たら看病したりしてくれます。
- ・いつも応援してくれます。だからぼくは勉強やお手伝いをがんばれます。

★お世話になっている家族にお礼をしよう

- お礼の手紙を書く。
 - ・お母さんへ 家の仕事に挑戦したら、とても大変だったことが分かりました。いつもありがとう。これからは、自分のことも家の仕事もがんばります。

- ・家庭の仕事の中には、学校でも取り組めるものがあることに気付かせ、取組を学校にも広げられるとよい。
- ・冬休み前の学習であれば、冬休みの「にこにこ大作戦」の計画を立ててもよい。
- ・3学期も「ありがとう いっぱい」の学習を行うことを伝え、継続して自分のことや家のお手伝いに取り組めるようにする。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・冬休みに宿題を出していない場合は、家庭での取組を発表させたり、学校の取組も観察して具体的な活動場面を取り上げ全体に広げたりする。
- ・これまでの取組を記録カード等から振り返り学習の初めと比べてできるようになったことなどを、学級全体場で発表することを伝える。
- ・前時までの紹介を想起させ、靴揃えや洗濯物畳みなど、発表の方法を工夫することを伝える。実演が難しいお手伝いに関しても、こつを伝えたり動作化して説明したりするなどの工夫をさせたい。

【評】伝え合いや発表の練習を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.130「まなびかたずかん」を見て、聞く人の態度を確認する。
- ・児童のお手伝いの様子を見て、自分の家での活動の場が広がるとよい。

【評】発表を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・食事や睡眠等、日々の家庭生活の中での配慮してもらっていること、治療や看病をしたときの安堵、成長の節目に当たる家族の行事などについて振り返ったり交流したりすることで、家族がしてくれたことに気付き、家族の願いを実施できるようにする。

- ・「ありがとう」が届けられる手紙を書くように指導する。

【評】手紙を書く活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・手紙の渡し方を確認したり、今後も自分のことや家族のことで、できることを続けたり挑戦したりする気持ちを高めて学習を終了する

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- ・児童の家族構成はさまざまであるため、事前に家族の実態を把握し、どの児童も意欲をもって取り組めるように配慮し、単元を構成する必要がある。
- ・家庭で行う活動が多くなるので、学年通信等を通して趣旨を伝え、家庭の協力を得られるようにしておく。その際に、第7時までに調べ学習やお手伝いの宿題が3回あることを伝えたり、記録カードをあらかじめ冊子にして配付したりするなど、家庭にも学習の見通しがもてるようにしておくとうい。
- ・本単元は、第8時を終えたところで冬休みを迎えることになっている。規則正しい生活やお手伝いの計画を立てて、冬休みの宿題として取り組ませてもよい。その際、教科書P.101を活用して指導するとうい。
- ・冬期休暇中のくらしについては学活で扱うとうい。その際、教科書P.102～103を参照しながら指導をしてもよい。
- ・第9時以降は、1月に行う予定だが、学校行事やその準備等で行えない場合、3月に扱うことも考えられる。